

休校記念誌

潮 騷

平成九年三月

尾鷲市立須賀利中学校



潮
くお

騷
さい

校門を閉める日に寄せて

尾鷲市立須賀利中学校



須賀利中学校全景



須賀利中学校校歌

作詞 村山 察道
作曲 北村 光雄

くらしおのゆたかにみちて
しずかなるみはとのあさよ
あたらしききぼうはわきて
わかきまゆひにいがやきぬ
めいりうのきふうみはざり
ゆめおあきすべりちやうやく

須賀利中学校校歌

作詞 村山 察道
作曲 北村 光雄

一、黒潮の豊かに満ちて 静かなる港の朝よ

新しき希望は湧きて 若き眉陽に輝きぬ

明朗の気風みなぎり

夢多き 須賀利中学校

二、さみどりの光に映えて なつかしき日和が山よ

いや深き真理もとめて 我が力日々伸びゆかん

勤勞の喜びあふれ

たくましく 須賀利中学校

三、潮鳴りを遠くにききて 夕風の丹生の浜辺よ

悔ゆるなき 今日を励みて わが心日々豊かなり

協同のほまれ 薫れる

あゝわれら 須賀利中学校

須賀利中学校よ有難う

昭和46年度卒業生(第25回) 岡本 祐幸

私は昭和44年に須賀利中学校に入学し、47年に卒業しました。私の学年は男7名女7名の計14名で構成されていました。卒業年の全校生徒数は確か44名だったと思います。つまり、30年近く前に既に非常に生徒数の少ない中学校でした。その意味では、今日まで良く存続してくれたものだと、関係者の方々の御努力に敬意を表します。

私の須賀利中学在校中の思い出としては、まず、バレーボール部での練習のことがあります。体育館がなかったから校庭の土のコートでボールを追いました。特に、真夏の炎天下では、カラカラに乾いたコート上で喉もカラカラなのを我慢しながら練習しました。また、生徒数が少ないため、出番のやたらに多かった運動会も思い出のひとつです。100m走があったと思ったら、すぐ2kmの中距離走に出て、その後三段跳びをやったり、器械体操で人間ピラミッドを作ったりと、皆大活躍でした。

以上、主に体を動かした思い出を書きましたが、私が現在まで維持してきた体力及び気力の源が上に述べたようなところにあるように思うのです。勿論、先生方に熱心に教えて頂いた、基礎学力も現在の自分の拠り所となっています。英語の勉強を始めたのが須賀利中学ですし、初めて外国人と簡単な会話を交わしたのが、須賀利中学の修学旅行の時でした。旅行中の課題として外国人と英語で会話することというのがあったのです。東京タワー上で、インド人に「このタワーの高さは何mですか」と質問され、「333mです」と答えたのを覚えています。

須賀利中学は私の進路決定にも大きな影響を与えました。小学校高学年から中学校にかけて、学校の図書室から借りて読んだ宇宙に関する本等に感動し、私は理論物理学者になろうと思いました。そして、素粒子論の研究者になりました。現在、私は研究対象を蛋白質に変更して、その立体構造を計算機シミュレーションで予測する研究をしています。

須賀利中学校は本年3月で休校になりますが、私たち卒業生の心の中では永遠に存続するでしょう。須賀利中学よ有難う。